

市官民協働型政策提言組織からの第2次提言

# 奥州市の医療の充実について

市が設置した奥州市官民協働型政策提言組織（シンクタンク）から、平成24年3月30日に第2次提言の提出がありました。今回の提言は、地域医療の充実に向けたものとなっています。市は、今回の提言を踏まえ、急性期医療の確保と地域医療の充実に向けて取り組みます。

■問い合わせ先 本庁総務企画部行財政改革推進室（内線434）

市民が安心して暮らせる地域医療を維持するため、市立医療機関のあり方や地域医療充実の方策について提言がありました。

この提言は、民間の視点による検討を市からお願したもので、提言の概要は次のとおりです。

## ■市民が安心して暮らせる医療提供体制の構築に向けた提言

### I 急性期医療体制の確保こそ急務

急性期医療は①総合性②専門性③救急の3つの要素を担う必要があるが、昨今の医師およびコメディカル不足で医療崩壊時代ともいわれる現状では、すべての要素を十分に補えるのは大病院と大病院のみであり、急性期患者のたらいまわしなどが新聞などをにぎわしている。

市内においても、現在産科、婦人

科の2次救急の受け入れ病院はなく、脳外科も胆沢病院が常勤医1人体制となり、急性期の患者の受け入れは困難を極めている。さらに小児科は胆沢病院、水沢病院に常勤の医師がおり粉骨碎身の働きをしているが、いかにせん人手不足にはかわらず、夜間の数時間ではあるが医師会に一次診療を、二次診療は市外の医療機関に委ねざるを得ない状況となっている。

### II 江刺5診療所は廃院を

市の公立病院および診療所については、まず常勤医師が不在の江刺の5診療所は、施設の老朽化も進み、また、月2回程度の診療で1回当たり6、7人程度と利用者も年々減少していることから、利用者の他の医療機関への交通手段などを確保した上で、廃院すべきと提案する。

### III 市立医療施設の効率的運営体制整備を

他の2病院、3診療所<sup>※3</sup>に関してはそれぞれが独立した形で運営が行われているが、今の状態ではこれらの施設で急性期医療の全てを賄いきれるものではない。胆沢病院と連携を保ち、お互いの欠けている診療分野を補いながら市の急性期医療を行ってほしいと思う。

しかしながら、一般会計からの繰り入れが、平成23年度決算見込みで5施設合わせておよそ20億円に達している。これが10年続けば200億円に及ぶ。財政改革が必要な奥州市としてはこの費用の削減を行い、急性期医療の確保に使用する必要がある。今のように5施設が別々に運営



されるのではなく、ネットワークを構築し、医療資源の有効かつ効率的な運営体制を作ってもらいたい。

### IV 指定管理も視野に検討を

全国的に医師不足と言われている現状においては、市単独では求められる急性期医療を維持するための人材の確保は至難の業と考える。市民の安全安心を守り将来に向けた急性期医療の充実を図るため、コンサルタントなどを入れ、民間のノウハウも活用しながら、全国展開をしているような医療機関への指定管理などを視野に入れた検討を行うべきと提案する。

若者が住みたいと思う夢のある奥州市を作り、安心して住み続けてもらうために急性期医療の確保は必須の条件と考え、地域医療に係る提言とする。

平成24年3月30日

奥州市官民協働型政策提言組織

政策アドバイザー

- |     |       |
|-----|-------|
| 代表  | 井筒 岳  |
| 副代表 | 田島 平伸 |
|     | 木下 幸雄 |
|     | 鎌田 卓也 |
|     | 柳田 善雄 |

## 「春の叙勲・褒章」「危険業務従事者叙勲」―栄誉に喜びの声

# 叙勲 褒章

顕著な功績を挙げた人などに贈られる春の叙勲・褒章と、警察官など危険な職務に長年従事した人に贈られる危険業務従事者叙勲の受章者が発表されました。市内からは、合わせて9人がその栄誉に輝いています。受章おめでとうございました。



瑞宝双光章  
(消防功労)  
千葉 成己さん(67)  
水沢区姉妹町字水ノ口前



昭和38年、消防士として東京消防庁に入庁。昭和47年地元に戻り、胆沢地区消防組合に入署しました。住宅密集地の経験を生かし、地域の防災活動に貢献されました。

旭日双光章  
(保健衛生功労)  
小野田 睦夫さん(72)  
水沢区福吉町



昭和38年、都内の歯科医院に就職。41年に地元に戻り家業の歯科医院を継ぎました。学校歯科医師として、長きにわたり検診活動に貢献されました。金ヶ崎町出身。

瑞宝小綬章  
(教育功労)  
阿部 和司さん(77)  
江刺区稲瀬字大迫



乳業会社勤務を経て昭和34年に教職に就きました。農業高校などで家畜の繁殖生理学の指導・研究に尽力され、平成8年から旧江刺市の教育委員長を務めました。

瑞宝双光章  
(消防功労)  
佐々木 金男さん(69)  
衣川区百ヶ袋



昭和39年、旧衣川村消防団に入団。平成12年から21年まで旧衣川村・市衣川区消防団団長を務めました。「消防はチームプレー」を信条に消防活動に尽力されました。

旭日双光章  
(警察管理運営功労)  
佐藤 ソノ子さん(74)  
水沢区大手町



平成13年、県公安委員に任命され、7年4カ月委員を務めました。通算で3年間委員長の職に就き、地域に根ざした防犯活動の普及に尽力されました。

瑞宝双光章  
(教育功労)  
阿部 信一さん(72)  
水沢区神明町



昭和37年に教職に就き、藤里小学校などに勤務。平成5年には衣川小学校で校長を務めました。「個性を生かし伸び伸び育てる」がモットー。江刺区出身。

黄綬褒章(業務精励)  
(建築板金工・卓越技能)  
鈴木 正二さん(69)  
前沢区字赤面



昭和33年、板金職人に弟子入りし、東京修行を経て30歳で独立。「修復依頼のない丁寧な仕事」を信条に、県内外100カ所以上寺社の屋根を施工。一関市八幡町出身。

瑞宝双光章  
(消防功労)  
本明 司さん(72)  
水沢区佐倉河字外和田



昭和39年、旧水沢市消防士として就職。「初期消火が重要」をモットーに訓練を積みました。旅館などの防火対象物の点検活動を普及し、火災予防に尽力されました。

瑞宝双光章  
(警察功労)  
富山 洋さん(70)  
水沢区宇川端



昭和37年、県警に採用されて40年間勤務。27年間は交通警察で活躍し「逃げない、逃がさない」を信念に交通事故防止に尽力されました。一関市千厩町出身。

※1…医療従事者 ※2…総合水沢病院と国保まごころ病院 ※3…国保前沢診療所、国保衣川診療所および国保小児夜間診療所